

バイオ・ライフサイエンス



キーワード：有害化学物質、高分解能質量分析計、毒性影響評価

高分解能質量分析計を基礎とした環境、食品及び生態中の有害化学物質の探索とそれらの毒性影響評価

薬学部 薬学科 教授

中尾 晃幸 NAKAO Teruyuki

研究の内容

環境、食品、生体中に存在する有害化学物質の測定を行っている。有害化学物質には、化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）により使用、輸入及び製造が規制されている物質や世界的に製造、使用、削減、適正処理が規定されている残留性有機汚染物質の他、日常的に使用されている食品添加物や樹脂添加剤等が挙げられる。

これら化学物質はヒトが生活する上で有用な化学物質として用いられる一方で、許容摂取量を超えた場合やそれらの代謝物が毒性を示すことが十分に考えられる。これら化学物質による大気、水、土壌などの環境汚染、様々な食材を対象とした食品汚染、ならびにヒトや魚介類を対象とした生態汚染実態の把握を目的として、高分解能質量分析計を用いて、実態解明を行っている。実験動物を使用した有害性評価や微生物や細胞から抽出したレセプターを利用した毒性評価も行っている。



高分解能質量分析計

産学連携・社会連携へのアピールポイント

- ・ 高分解能質量分析計による有害化学物質の測定ならびに未知化合物の定性分析が可能
- ・ 上記有害化学物質の生活環境汚染実態調査と健康リスク評価に関する

研究室名（疾病予防学研究室）

URL：<http://www.setsunan.ac.jp/~p-shokuh/saito/homu.html>

